

持続可能な果樹栽培への挑戦

専門学校山梨県立農林大学校養成科果樹学科 大和田まゆあ・久保田遙

【目的】

モモやブドウなどの果樹栽培が盛んな山梨県において、環境に配慮し、持続的に果樹生産を行っていくことが重要である。

そのために、山梨県で全国に先駆けて取り組んでいる「4パーミルイニシアチブ」の考えの基、剪定したモモやブドウの枝を炭化したバイオ炭を、タコツボ時に土壌へ還元する。さらに、バイオ炭の有効活用について検討する。

【取組内容】

- ・ 4パーミルイニシアチブの取り組み
令和5年度に剪定したブドウやモモの剪定枝を効率的に炭化できる機器を用いてバイオ炭を増産し、果樹ほ場に貯留し、温暖化の抑制に寄与。

→ **バイオ炭の有効活用** ①果樹の幹元へのマルチ材として利用 ②品質保持材として活用



③果樹の苗木植え付け時の土壌改良材として利用



良質な果実生産



炭化



- ・ 土壌分析に基づいた堆肥や有機質肥料の施用
- ・ 草生栽培による有機物の補給

【結果】

バイオ炭の有効活用について3つの新たな取り組み実施した結果、

- ①では雑草の抑制につながり労働力の削減につながった。
- ②では収穫したモモの輸送時においてエチレンの発生を抑える効果があることが確認できた。
- ③では若木が順調に生育することを確認できた。

以上のことから、バイオ炭を有効活用する様々な取り組みをした結果、どの取り組みでもその効果を確認することができ、持続可能な果樹栽培につなげることができた。今後、さらなる活用方法や効果を検証しながら、環境負荷軽減と良質な果実の生産を目指していく。